

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 高野 良 | 所 属 | | 農学部 亜熱帯生物資源学科 | 職 名 | | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--|---|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | 各講義の資料については、改善・改訂を進めるとともに、「有機化学」、「生体高分子化学」についてはこれまで通りWebClass、教員⇄学生を往復するカードを用いるなどにより、授業の双方向化を進める。「キャリアディベロップメント」については次年度への引継ぎにむけて授業計画を改訂する。 | | | 0.30 | 「有機化学」、「生体高分子化学」については改善・改訂を行い計画通りに講義を行うことができた。「キャリアディベロップメント」についても例年に加え新たな単元を加えて実施し、さらに次年度へにむけてやや大幅な改訂授業計画案を作成した。 | | |
| 研究 | 0.30 | 各種紅藻多糖の構造解析、単糖の絶対配置の帰属法の開発、および糖の脱硫酸反応の反応機構の解析を進める。 | | | 0.30 | リュウキュウソ、ナンカイソの多糖の構造について新たな知見が得られた。また、単糖である3, 6-アンヒドロガラクトースの絶対配置の新規な帰属法の開発・確立を行うことができた。 | | |
| 社会 貢献 | 0.05 | 専門分野である各種多糖の化学について、団体等からの協力要請などに応える。 | | | 0.05 | 沖縄スーパーフード協会の理事として、沖縄発信の食品にむけての協力を行った。 | | |
| 管理 運営 | 0.35 | 副学部長とそれに関連する農学部および全学の各委員会の委員およびキャリア教育センターの広報セクション長としての職務を遂行する。 | | | 0.35 | 副学部長、キャリア教育センター広報セクション長および各種委員会委員として、農学部および全学の教育支援等に関する運営に参画した。 | | |
| | 0.00 | | | | 0.00 | | | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 和田 浩二 | 所 属 | 農学部 亜熱帯生物資源学科 | 職 名 | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.35 | 学部の担当科目(食品分析学、食品科学、食品機能科学実験Ⅰ、セミナーⅠ・Ⅱ等)では、基礎的な内容とともに、関連する研究成果も含めた実践的な授業を行う。大学院担当科目(食品分析学特論)では、プレゼンテーション技術の指導を取り入れる。また大学院生TAの有効活用を図る。食品関連の資格(食品衛生監視員及び食品衛生管理者任用資格、健康食品管理士受験資格)の取得や現状について学生に講義やセミナーを通して指導する。 | | 0.35 | 学部担当科目はシラバスに沿った授業を行うとともに、食品分析学および食品科学の講義の中では、沖縄特産品である黒糖に関する研究成果を紹介し、より専門的な観点から講義を行った。食品機能科学実験Ⅰでも地域の特産品である泡盛を実験材料のひとつとして用いた。また、食品分析学の初回に食品関連の資格の概要について説明を行った。大学院の演習では課題を与え、作成したスライドによるプレゼンテーションを実施した。また大学院生1名を実験、セミナー、卒業論文のTAとして、教育補助に活用した。 | |
| 研究 | 0.35 | 研究室所属の大学院学生、博士研究員および学外共同研究者と共に研究論文の採択を目指す。学会発表ならびに関連学会の運営に協力する。外部資金を獲得し、関連試験研究機関及び企業と受託・共同研究を行い、実社会にも応用できる技術の開発に努める。 | | 0.35 | 研究室出身の大学院生、博士研究員および学外の共同研究者との研究成果が国際誌に2報、国内誌に1報掲載された。国内学会で3件の発表を行った。また外部資金等としては民間企業との共同研究1件、沖縄県の試験研究機関との共同研究3件で、食品関連を中心に研究を実施した。 | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 専門分野における学外委員会に参画する。これまでの共同研究の成果を講演会やセミナーなどで公表し、社会貢献を行う。 | | 0.10 | 学外委員として沖縄県含みつ糖対策協議会、国内製糖工場廃棄物からの有価物製造技術開発検討委員会等に参画した。また、放送大学で対面授業を行った。産業支援としては、平成28年度西日本食品産業創造展(マリンメッセ福岡)において「シークワサー精油の香りと香料への利用」についてセミナーを行った。 | |
| 管理 運営 | 0.20 | 全学的には農学部評議員、全学教育委員、学部では農学部副学部長や各種委員としてそれぞれの組織の管理運営に参加する。 | | 0.20 | 全学的には農学部評議員として、大学の組織の管理運営に携わった。学部では農学部副学部長、教育委員長および各種委員会委員として学部の管理運営にあたった。 | |
| | 0.00 | | | 0.00 | | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 上地 俊徳 | 所 属 | | 農学部 亜熱帯生物資源学科 | 職 名 | | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|---|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生支援 | 0.50 | 担当授業(学部:食品衛生学、免疫臨床化学、大学院:生物資源利用科学特論など)をとおして大学生、院生にふさわしい知識、技術を教授し社会に役立つ人材育成の一翼を担うべく努める。なお講義などでは常に最新の情報なども提供できるように配慮する。学生支援面では、就職、進学を問わず、研究室所属学生の希望が達成できるように全面的に支援協力する。特に就職活動が忙しい時期はそれに集中できる環境を整えてあげる。 | | | 0.50 | 学部及び大学院(修士)課程において、それぞれほぼ予定通りのスケジュールで業務を実施。講義内容については身近な研究課題や最新情報などを交えて紹介した。受講生の専門知識はレベルアップしたと思う。本研究室所属の学部学生の就職先が2名とも決まり(100%)、何にもまして嬉しく思う。 | | |
| 研究 | 0.40 | 卒論研究が活動の中心となる。その他には、今年度よりスタートした農水省委託プロ「地域の農林水産物／食品の機能性発掘のための研究開発」のメンバーの一員としてもその一翼を担う(5年計画の1年目)。また、キリン株式会社の新商品開発にコンサルタントの立場で参画する。 | | | 0.40 | 卒論研究は例年と特に変わらず淡々と、進められたように思う。プロジェクトに関しては本年度は予備的試験を行ったところまでで、次年度から本格化の予定。キリン株式会社とのコンサルタント業務は予定通り完了した。 | | |
| 社会貢献 | 0.05 | 沖縄県食品の安全安心推進計画懇話会の構成員(委員長)として、県民の食生活向上等に貢献する | | | 0.05 | 本懇話会は生産者、消費者、流通業者、食品営業者などの各団体代表者及び学識経験者より構成され、本年度も県庁会議室で開催された。そこでは沖縄県民の食の安全安心に関する基本的事項が懇談され、その内容は県の関連業務に反映されている。 | | |
| 管理運営 | 0.05 | 琉球大学農学部学術報告編集委員長(H27.4.1～)として、今年度の農学部学術報告誌の編集、発行を行う予定。 | | | 0.05 | 本年度は9編の投稿があり、現在その編集作業に入っている。本年度中に第63号が発行の予定。 | | |
| | 0.00 | | | | 0.00 | | | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 玉城 一 | 所 属 | | 農学部 亜熱帯生物資源科学科 | 職 名 | | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--------------------------------------|---|---------------------------------------|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生支援 | 0.40 | 学部教育では栄養生理学、栄養生化学、生物資源とサイエンス、亜熱帯生物資源科学実験、食品機能科学実験を、大学院修士課程では栄養生化学特論の講義を行う。鹿児島連大の構成員として学生の博士論文作成の補助を行う。学生の就職、進学の相談に対して積極的に情報提供、アドバイスを行う。 | | | 0.40 | 学部、大学院の講義、実験実習を行うとともに大学院学生の論文作成補助を行った。また学生に対して進路指導の情報提供、アドバイスを行った。 | | |
| 研究 | 0.30 | 学生に対して研究指導を行い、学会発表、学術論文の書き方を指導するとともに学術誌への投稿を行う。また企業や地域の市町村との共同研究を行う。現在は地域の企業とともに野菜の化学組成を研究している。 | | | 0.30 | 学生の研究指導、地域の企業との共同研究を行った。 | | |
| 社会貢献 | 0.10 | 研究を通し、地域の発展に協力する。 | | | 0.10 | 地域企業との共同研究を企画し、商品開発をサポートしている。 | | |
| 管理運営 | 0.20 | 各種委員会活動に積極的に参加し、大学管理運営に寄与すべく努力する。本年度は学生生活委員、学生生活支援専門委員としての活動を行っている。 | | | 0.20 | 代議員、学生生活委員としての活動を行った。 | | |
| | 0.00 | | | | 0.00 | | | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 | | <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 高良 健作 | 所 属 | | 農学部 亜熱帯生物資源学科 | 職 名 | | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|---|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.35 | 「食品機能化学」では市販テキストを用いて授業内容を明確化し、解説を丁寧にして理解度を高めるよう努める。「食品安全化学」はグループを編成して設定したテーマにおける発表形式で協同学習を行う。「食品機能科学実験」「亜熱帯生物資源科学実験」では楽しくかつ主体的に実験が進行するようグループ実験を行う。卒業論文の指導においては、それぞれの学生の習熟度に応じ実験操作、機器分析法、データ処理、文献調査を主体的に学べるよう努める。 | | | 0.40 | 「食品機能化学」や「食品安全化学」で協同学習を増やし、学生の主体性を高める授業を行った。また、「亜熱帯生物資源科学実験」「食品機能科学実験」においてはグループ単位での主体的・協調的な実験を行なうよう努めた。卒業論文指導では、個々の能力に応じた研究を行い、概ね目標を達成した。 | | |
| 研究 | 0.35 | 外部資金を獲得した研究を積極的に行う。 | | | 0.30 | 農水省委託プロジェクトや2件の産学共同研究による外部資金を活用した研究を実施し、充実した研究を実施することができた。 | | |
| 社会 貢献 | 0.20 | 沖縄県産業振興基金事業の『産学官連携推進ネットワーク形成事業』委員や学外からの講師依頼等、社会貢献を積極的に行う。 | | | 0.20 | 第1回農水産業支援技術展沖縄セミナーでの講演、平成28年度泡盛鑑評会品質評価員、カリスハーブスクール講師、JICA研修講師、産学官連携推進ネットワーク形成事業委員、沖縄県健康食品管理士会、および南方資源利用技術研究会幹事など積極的に務めた。 | | |
| 管理 運営 | 0.10 | 教育委員、URGCC推進委員、ハラスメント相談室委員など各種委員会を通して管理運営に積極的に務める。 | | | 0.10 | 農学部教育委員、URGCC推進委員、ハラスメント相談室委員、フィールドセンター運営委員各種委員会に参加し、管理運営に積極的に務めた。 | | |
| | 0.00 | | | | 0.00 | | | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 福田 雅一 | 所 属 | | 農学部 亜熱帯生物資源科学科 | 職 名 | | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|---|---|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.45 | 学部担当科目として分子生物学、遺伝子工学、生物工学、生物資源利用とサイエンス、亜熱帯生物資源科学実験、生物機能開発学実験Ⅰ、卒業論文Ⅰ、Ⅱ、セミナーⅠ、Ⅱ等を担当する。大学院担当科目としては、修士課程の遺伝子工学特論、農学研究の最前線等を担当する。1年次指導教員として学生支援に努めていく。卒業予定学生が単位不足などで卒業できないということがないように単位確認について指導を行う。研究室の学部4年生の就職もなるべく希望通りになるよう支援・指導していく。 | | | 0.45 | 共通教育科目、情報科学演習を石井先生、TAの学生と共に担当。学部担当科目の分子生物学、遺伝子工学、生物工学、生物資源利用とサイエンス、亜熱帯生物資源科学実験、生物機能開発学実験Ⅰ、生物機能開発学実験Ⅱ、卒業論文Ⅰ、Ⅱ、生物機能開発学セミナーⅠ、Ⅱを担当。大学院担当科目として、修士課程の遺伝子工学特論、農学研究の最前線、亜熱帯農学特別演習Ⅱを担当。1年次指導教員として高島教授、石井先生とともに懇談会、1、3研修に参加。卒業予定学部学生は単位不足などなく無事卒業を確認し。就職先もほぼ希望通りになった模様であった。修士1年途中で希望の就職先が決まった学生については、仕事をしてもらいながら長期履修制度を利用して引き続き研究指導を行っていく予定である。 | | |
| 研究 | 0.35 | 博士・修士大学院学生の論文指導、および学部学生の卒論指導を行い、卒業に十分な成果を出せるようにする。さらに、農芸化学会等において発表できるような研究成果も目指す。また、過去の研究成果を論文として出版できるようにする。 | | | 0.35 | 博士・修士大学院学生3名の中間発表、および学部学生4名の卒論発表を担当した。博士課程2年学生は昨年8月に日本植物学会で発表を行い、博士課程1年学生は今年3月に日本農芸化学会において発表する予定であり、両者とも現在研究成果の論文作成準備中である。 | | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 毎年行われるオープンキャンパスや体験アグリサイエンスなどに積極的に取り組み、高校生への研究紹介や実習の指導を行う。 | | | 0.10 | 7月に行われたオープンキャンパス、体験アグリサイエンスにおいて、参加した高校生への研究紹介や実習の指導を行った。 | | |
| 管理 運営 | 0.10 | 遺伝子組み換え生物等使用安全委員会委員(学部安全主任)、特別編入学による太平洋島嶼地域から留学生受入事業ワーキンググループ、機器分析支援センター運営委員会委員など全学、学部、学科、講座内の活動に参加していく。各種入学・編入試験等において入試業務に参加する。 | | | 0.10 | 遺伝子組み換え生物等使用安全委員会委員(学部安全主任)、研究基盤センター運営委員会委員、特別編入学による太平洋島嶼地域から留学生受入事業ワーキンググループ委員として全学、学部、学科、講座内の活動に参加した。各種入学・編入学試験等において入試業務に参加した。 | | |
| | 0.00 | | | | 0.00 | | | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 高島 幸司 | 所 属 | | 農学部 亜熱帯生物資源学科 | 職 名 | | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|---|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.40 | 学部担当科目(菌類学、天然物化学、生物機能開発学実験、セミナーⅠ・Ⅱ)、分担科目(生物資源利用とサイエンス)等、大学院担当科目(林産化学特論)、分担科目(亜熱帯農学特論)等を担当する。シラバスに沿った理解しやすい講義を心がける。卒業論文作成のための研究指導を行う。1年次の指導教員を担当する。4年生の就職や進学の進路について相談に応じ、適切に指導を行う。公務員志望者に対して林産関連科目受験の支援を行う。 | | | 0.40 | 学部担当科目(菌類学、天然物化学、生物機能開発学実験、セミナーⅠ・Ⅱ)、分担科目(生物資源利用とサイエンス)等、大学院担当科目(林産化学特論)、分担科目(亜熱帯農学特論)を担当した。シラバスに沿って授業展開し、講義中のスライドを資料として配布し、理解向上に努めた。卒業論文作成のための研究指導を適切に行った。1年次の指導教員を担当した。学部学生の就職や進学の進路について相談に応じ、適切に指導した。公務員志望者に対しては、林産関連科目受験の支援を行った。 | | |
| 研究 | 0.30 | 日本木材学会等で口頭発表を行い、学術論文を投稿する。沖縄県森林管理課等と協力してきのこ生産企業を訪問し、技術相談に応じる。沖縄県の地域性を活かしたきのこ栽培技術を開発するために沖縄県並びに試験研究機関との共同研究を目指す。 | | | 0.30 | 日本木材学会等で4件発表した。日本きのこ学会誌に2報掲載された。沖縄県森林管理課と沖縄県の特用林産物振興策について協議し、共同研究を目指した。さらに協力してきのこ生産企業を訪問し、技術相談に応じた。沖縄イノベーションシステム構築事業(バガス有効利用法の開発)を分担し、きのこ関連研究を実施した。 | | |
| 社会 貢献 | 0.20 | 日本きのこ学会会長、日本菌学会評議員並びに日本木材学会九州支部理事として、その役割を全うすることを通して社会貢献に寄与する。 | | | 0.20 | 日本きのこ学会会長、日本菌学会評議員並びに日本木材学会九州支部理事として、その役割、責務を全うした。ベトナム国立農業遺伝研究所よりきのこの育種・栽培に関する技術指導を依頼され、適切に対応した。中国浙江省慶元県より第1回国際食用菌栽培会議における講演を依頼され、講演を行った。 | | |
| 管理 運営 | 0.10 | 代議員、担当委員として学部における組織の管理運営に参画し、寄与する。 | | | 0.10 | 農学部代議員、自己評価委員として任務を遂行した。 | | |
| | 0.00 | | | | 0.00 | | | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | 外山博英 | | 所 属 | 農学部 亜熱帯生物資源学科 | | 職 名 | 教授 | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|-----|----|--|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.35 | 前期、学部3年生に「発酵化学」と「発酵・生命科学実験」(分担)、学部2年生に「微生物機能学」を行う。「食・農・環境概論」、「生物資源利用とバイオサイエンス」、「亜熱帯農学特論」を分担する。後期、学部1年生に「生物化学」、学部3年生に「泡盛醸造学」、大学院生に「応用生物化学特論」、学部3年生に「泡盛醸造学実験」(分担)を行う。修士論文、卒業論文のための研究指導を行う。4年次の指導教員を担当する。4年生の就職や進学について、会社や大学院の紹介などを行い、進路についての相談に応じるなど、適切に指導を行う。 | | 0.35 | 前期、学部3年生に「発酵化学」と「発酵・生命科学実験」(分担)、学部2年生に「微生物機能学」を行った。「食・農・環境概論」、「生物資源利用とバイオサイエンス」、「亜熱帯農学特論」を分担した。後期、学部1年生に「生物化学」、学部3年生に「泡盛醸造学」、大学院生に「応用生物化学特論」、学部3年生に「泡盛醸造学実験」(分担)を行った。修士論文、卒業論文のための研究指導を行った。4年次の指導教員を担当した。4年生の就職や進学について、会社や大学院の紹介などを行い、進路についての相談に応じるなど、適切に指導を行った。 | | | |
| 研究 | 0.30 | ※外部資金獲得に向け微生物に関して、会社のコンサルタント業務を行う。酢酸菌研究集会を和歌山で開催し、発表を行う。ビタミンB研究協議会で口頭発表する。日本生物工学会大会(富山)、日本農芸化学会本大会(京都)において発表する。ビタミン・バイオフィクターの国際会議(富山)で発表する。学術論文を2報以上投稿する。チェコのグループとの共同研究を推進する。タイからの研究者を受け入れる。泡盛に関する共同研究を推進する。た取組がある場合には必ず記載ください | | 0.30 | 外部資金獲得に向け微生物に関して、会社のコンサルタント業務を行った。酢酸菌研究集会を和歌山で開催し、発表を行った。ビタミンB研究協議会で口頭発表した。日本生物工学会大会(富山)、日本農芸化学会本大会(京都)において発表した。ビタミン・バイオフィクターの国際会議(富山)で発表した。学術論文を2報以上投稿した。チェコのグループとの共同研究を推進した。タイからの研究者を受け入れた。泡盛に関する共同研究を推進した。 | | | |
| 社会 貢献 | 0.25 | 沖縄県酒造協同組合や協同組合琉球泡盛古酒の郷の酒質審査委員として未納税酒の品質に関する審査を行う。学術雑誌の論文審査を行う。日本生物工学会と日本農芸化学会西日本支部の評議員を務め、日本生物工学会大会(鹿児島)の実行委員を務める。沖縄国税事務所の泡盛品質評価委員を務める。公開講義「発酵学」を開講する。琉球料理及び琉球泡盛の世界文化遺産登録委員会委員として活動する。日本生物工学会九州支部市民フォーラムを開催する。 | | 0.25 | 沖縄県酒造協同組合や協同組合琉球泡盛古酒の郷の酒質審査委員として未納税酒の品質に関する審査を行った。学術雑誌の論文審査を行った。日本生物工学会と日本農芸化学会西日本支部の評議員を務め、日本生物工学会大会(鹿児島)の実行委員を務めた。沖縄国税事務所の泡盛品質評価委員を務めた。公開講義「発酵学」を開講した。琉球料理及び琉球泡盛の世界文化遺産登録委員会委員として活動した。日本生物工学会九州支部市民フォーラムを開催した。 | | | |
| 管理 運営 | 0.10 | 全学の研究推進委員、国際交流委員、共通教育日本語・日本事情科目企画委員会委員を務める。農学部国際交流委員会委員長、教育委員会委員、エコアクション21ユニット実施責任者として活動する。全学の短期留学プログラム実施委員会に出席する。 | | 0.10 | 全学の研究推進委員、国際交流委員、共通教育日本語・日本事情科目企画委員会委員を務めた。農学部国際交流委員会委員長、教育委員会委員、エコアクション21ユニット実施責任者として活動した。全学の短期留学プログラム実施委員会に出席した。 | | | |
| | 0.00 | | | 0.00 | | | | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 平良 東紀 | 所 属 | | 農学部 亜熱帯生物資源学科 | 職 名 | | 教授 |
|--|---------------------|--|-----|--|--|---|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生支援 | 0.20 | 学部科目(講義2科目, 実習3科目, 演習2科目), および大学院科目(講義1科目, 演習2科目)を担当する。特に, 学部2年次導入科目である生命科学の講義の予習・復習のために, 講義のスライドをe-learningのweb siteで学生が見られるようにする。講義の理解度を上げるために「ワークシート」を持ちいる。 | | | 0.20 | 生命科学の講義では, Web class (e-learningシステム) 上に講義のスライドをいつでも学生が見られるようにすると同時に, 講義のより効率的な理解を進めるために, ワークシートを用いた。専門性の高いタンパク質工学の講義でも, 同様にWebclassおよびワークシートを導入するとともに, 本分野の最新の解析手法を学ぶためにPCプログラムを用いた実習を取り入れた。 | | |
| 研究 | 0.30 | 学部および大学院学生と共に研究を行い, 専門分野での学会発表を積極的に行い, 研究論文の採択を目指す。他研究機関との共同研究を行い, 高いレベルの研究論文の採択を目指す。抗カビ酵素の産業化, 泡盛蒸留粕の有効利用, 乳酸菌の応用に関する研究で外部資金の獲得を目指す。 | | | 0.30 | 博士・修士・学部学生および他研究機関との共同研究の成果を学会で6件(国外1, 国内5)発表した。これらの成果の一部を国際誌(Biosci Biotechnol Biochem., IF=1.28)に投稿し, 1件採択された。「高抗カビ活性酵素の実用化に向けた技術開発」「泡盛蒸留粕乳酸発酵飼料によるブランド豚の創出」「泡盛蒸留粕を乳酸発酵させた乳酸菌飲料『美らBio』の製品開発」「石垣島乳酸菌で作った, 石垣島ジャージー牧場ヨーグルト」に関する研究で企業と共同で公募研究に応募・採択され外部資金を獲得し, 成果を得た。 | | |
| 社会貢献 | 0.20 | 中高生の部活動振興プログラム(科学技術振興機構主催)において昭和薬科大学附属高校の化学部の研究の指導・アドバイスを行う。また, 高等学校における出前講義等を行う。一般市民向けの講演会などを積極的におこなう。南方資源利用技術研究会の庶務幹事として, 会の運営を行う。 | | | 0.20 | 中高生の部活動振興プログラム(科学技術振興機構主催)において昭和薬科大学附属高校の化学部の研究の指導・アドバイスを行った。高等学校における出前講義「ライフサイエンスと私達」を県内と県外で1件ずつ行った。生物工学会九州支部市民フォーラム「沖縄発バイオテクノロジー ～微生物をコントロールし活かす～」, 農林水産・食品産業技術振興協会主催「アグリ技術シーズセミナー in 沖縄」, 農芸化学会主催「サイエンス・カフェ in 那覇」での講演または開催に関わった。南方資源利用技術研究会の庶務幹事として, 総会・特別講演会および研究発表会・特別講演会を開催した。 | | |
| 管理運営 | 0.30 | 学科長として, 学部および学科の様々な案件に積極的に対応する。広報委員としてウェブページの更新, 高校への出前学部説明会への参加等, 積極的に委員会活動を行う。 | | | 0.30 | 学科長として, 学部および学科の様々な案件に積極的に取り組み, 対応した。特に来年度から新設される「健康栄養科学コース」の様々な案件に対応し, 同コースの新設に貢献した。広報委員では, 広報委員のウェブページ担当者として, ウェブページの更新等を行った。高校での出前学部説明会を分担で行った。 | | |
| | 0.00 | | | | 0.00 | | | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |